

年次報告書

1967年度

琉球水道公社



年 次 報 告 書

1967年度

琉 球 水 道 公 社

琉球水道公社

琉球列島米国民政府補助機関

1967年9月19日

琉球列島米国民政府

民政官

スタンリーS.カーペンター閣下

琉球水道公社の1967会計年度（自1966年7月1日至1967年6月30日）の
年次報告書を提出いたします。

本報告書の第1節では、同年度における公社の諸活動を回顧し、第2節
では、公認会計士による監査報告書および財務諸表を呈示してあります。

理事長 *Harington W. Cochran*
陸軍大佐ハリントンW.コ克蘭

総裁 大徳博貞

目 次

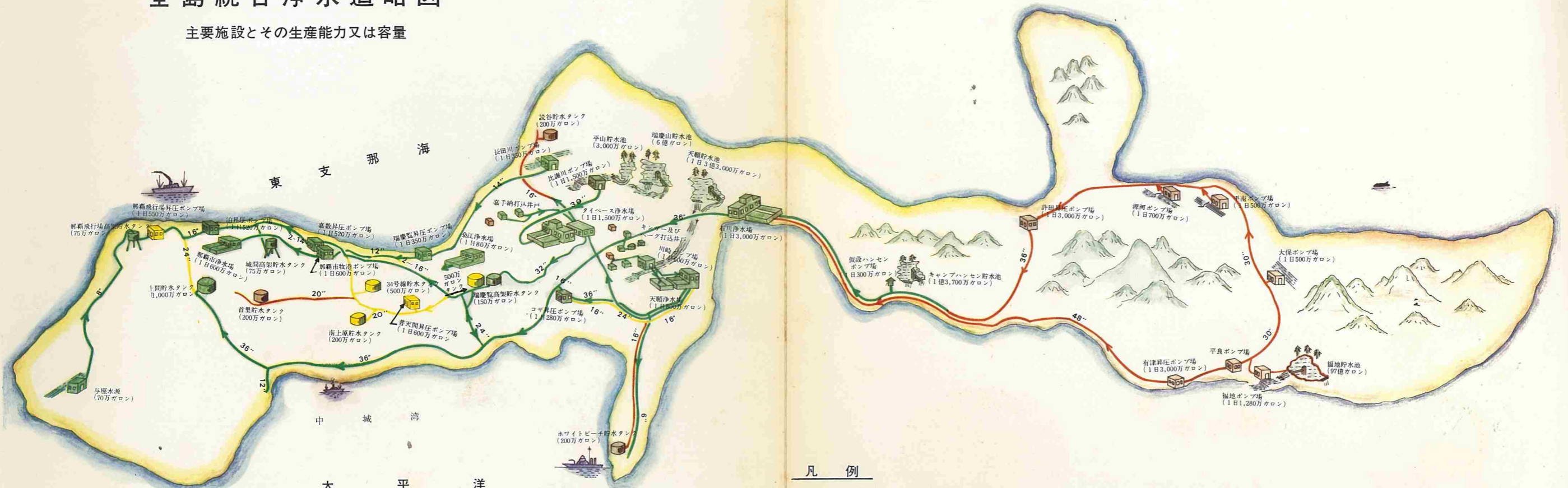
	頁
送付書簡	iii
目 次	v
図表・写真・略図および表索引	vi
琉球水道公社の概要	x-xi
報 告	
I 1967年度の回顧	1
1. 概 要	3
2. 運 営	3
全島統合上水道の運営	3
水の売上	4
琉球列島米国民政府と米海兵隊間の協定	4
3. 設備投資計画	4
完了した建設工事	5
新規契約工事	10
完了した設計又は調査	11
進行中の建設工事	11
設計又は調査研究中の諸計画	12
1967会計年度の民政府一般資金による諸計画	12
1968会計年度に期待される資本増加	12
II 財務報告書	13
1. 公認会計士の監査報告書	15
2. 比較貸借対照表	16
3. 比較損益および剰余金計算書	17
4. 財務諸表脚注	18

図表、写真、略図および表索引

図表	頁
1. 琉球水道公社の機構図	ix
2. 資本および剰余金の累増（1959～1967会計年度）	xi
3. 公社の水の売上（1959～1967会計年度）	4
4. 天願地下水源の断面概略図	7
<u>写真</u>	
1. 理事会	x
2. タイベース浄水場の凝集攪拌池	5
3. 一千万ガロン那覇貯水タンクとその落成式：	
a. 落成式で祝辞を述べる高等弁務官	5
b. タンクの通水弁を開栓する高等弁務官	5
c. タンクの全景	5
d. タンク場地域を視察する高等弁務官と民政官	6
e. 落成式で祝辞を述べる那覇市長	6
4. 長田川原水ポンプ場	6
5. 川崎原水ポンプ場	7
6. 天願ダムの水門塔	7
7. 石川浄水場	
a. 浄水場の全景	8
b. 正面玄関	8
c. 一千万ガロン原水タンク	8
d. 原水放水路	8
e. 薬品混和水路	8
f. 攪拌機用電動機	9
g. 凝集攪拌池、沈澱池および濾過池	9
h. 濾過池配管室	9
i. ポンプ室	9
j. 中央操作室	9
k. 水質試験室	9
8. ハンセン原水ポンプ場	10
<u>略図</u>	
1. 全島統合上水道施設	vii
2. 東部送水管および与那原、新里間の送水管	6
3. ハンセン原水ポンプ場から那覇貯水タンクまでの送水管	10
<u>表</u>	
公社による水の売上内訳（1966会計年度および1967会計年度）	3

全島統合浄水道略図

主要施設とその生産能力又は容量

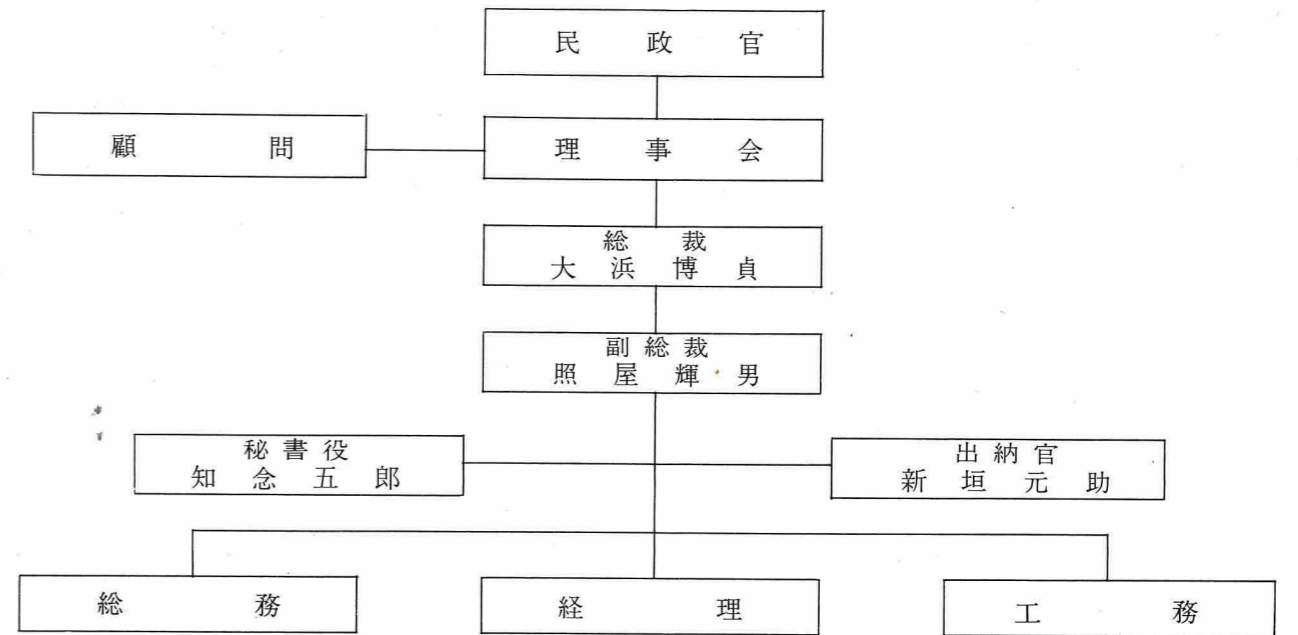


凡例

- 既設
- 工事中
- 計画中

琉球水道公社機構図

(1967年6月30日現在)



理事



小波 藏 政 光
理 事
琉球政府行政副主席



ハリントン W. コ克蘭大佐
理事長
米国民政府公益事業局長



ハロルド W. ガスタフソン中佐
理 事
フォートバクナー工兵隊長



宝 村 信 雄
理 事
琉球開発金融公社総裁



大 浜 博 貞
理 事
琉球水道公社総裁

琉球水道

設立および目的：

琉球水道公社は、琉球住民の使用と利益および産業開発に必要な安全かつ十分な水を供給する目的をもって、高等弁務官布令第8号により1958年9月4日琉球列島米国民政府の補助機関として設立された。

業務の範囲：

琉球水道公社は、その目的を達成するため次のような権限が与えられている。

1. 水を生産、購入し、これを琉球列島民政官が認可した料率で一般消費者に供給販売すること。
2. 取水、浄水、送水、配水およびその販売をするため、琉球列島において飲料水の生産に必要な財産および施設を取得し、維持し、かつ運営すること。

3. 琉球列島において貯水施設を含むダム、ポンプ場、浄水場、送水管および附帯施設を取得し、または建設すること。
4. 水道管を連結することによって、諸給水施設を1つ又はそれ以上の上水道系統に統合すること。

管理および業務の運営：

公社の管理権は民政官によって任命された5名からなる理事会に付与されている。現在理事会には琉球列島米国民政府公益事業局長のハリントン W. コ克蘭大佐(理事長)、琉球水道公社総裁の大浜博貞氏、琉球政府行政副主席の小波蔵政光氏、フォートバクナー工兵隊のハロルド W. ガスタフソン中佐、琉球開発金融公社総裁の宝村信雄氏が選任されている。

公社の日常業務は、理事を兼ねている総裁の



開会中の公社の定例理事会

公社の概要

直接監督のもとに、1967年6月30日現在32名の琉球人職員によって運営されている。

全島統合上水道：

全島統合上水道は沖縄住民の主要給水源である。この施設は在琉米陸軍および公社所有の施設からなっており、現在は在琉米陸軍が運営している。公社は那覇市を含む最も人口の密集した中南部の12カ市町村の需要をみたすために、運営協定にもとづいて在琉米陸軍から浄水を原価で購入している。

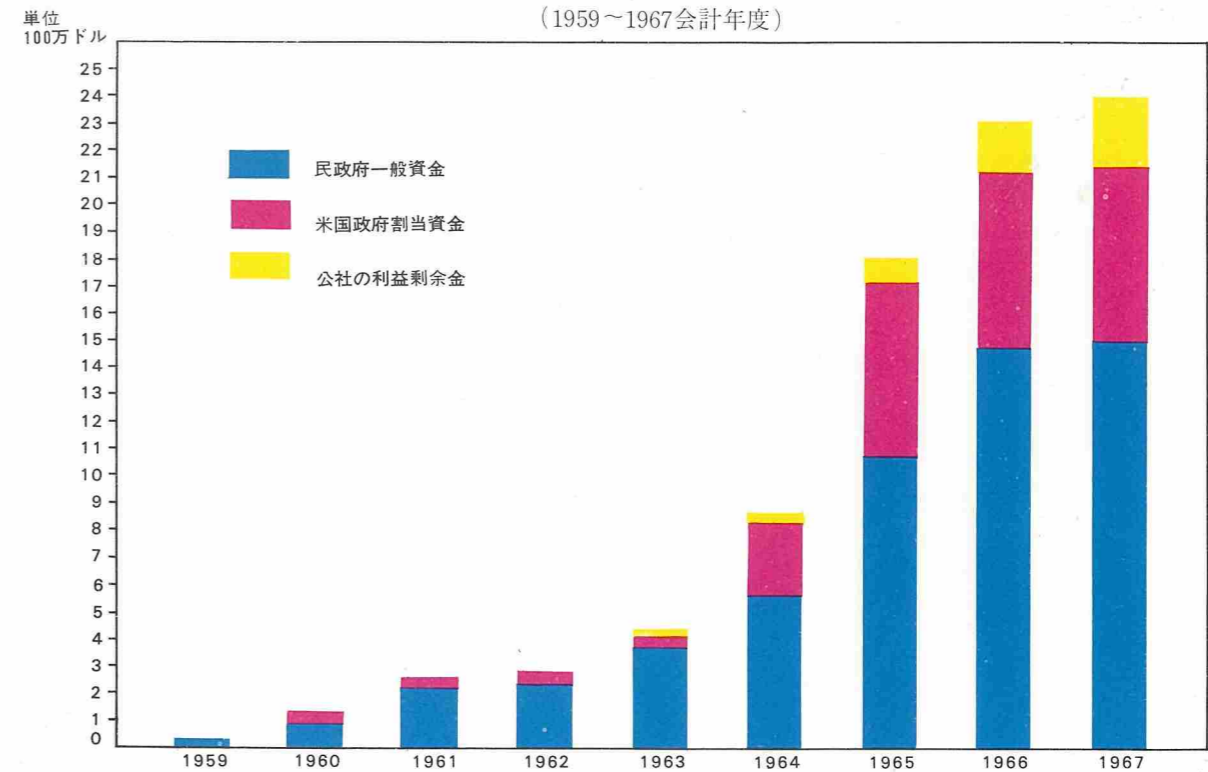
現在1日平均30,000,000ガロン、需要のピーク時には33,000,000ガロンをこえる浄水能力をもつこの施設は、目下公社の水道基本計画の下に、その資金によって急速な拡張工事が進められている。1967年6月30日現在で公社がこの上水道施設に投下した資本は総額15,400,000ドルに

のぼり、数年後には29,000,000ドルを超える予想である。

財政：

琉球水道公社の設備投資の資金源は、琉球列島米国民政府一般資金、米国政府割当資金（陸軍の琉球列島行政管理資金）および公社の利益剰余金の3つである。そのうち、琉球列島米国民政府一般資金および米国政府割当資金が公社の主要資金源を構成し、両資金からの拠出額は、1967年6月30日現在それぞれ14,900,000ドルおよび6,500,000ドルに達している。公社の利益剰余金は、1967年6月30日現在2,600,000ドルになっているが、公社の基本政策として、利益剰余金は、すべて既存施設の拡張、改良および将来の需要増大に應ずるための新しい水源開発等に再投資されることになっている。

資本および剰余金の累増 (1959~1967会計年度)



I. 1967年の回顧

1. 概要

本会計年度中に、公社は全島統合上水道の改良および拡張工事を続行するため、琉球列島米国民政府一般資金から、1,250,000ドルの資金供与を受けた。本会計年度中に、11件の建設工事と14件の設計又は調査研究が完了した。加うるに、14件の建設工事契約が締結され、そして、11件が工事続行中で、9件が設計および研究調査中である。その結果、13,000,000ドルにのぼる上水道施設が現在運営されており、更に8,000,000ドルにのぼる諸工事が計画されている。

琉球における水の需要は依然増加を続け、1967年度中には、公社の水の売上げは54億1,700万 ガロンとなり、前年度に比べ22パーセントの増加を示している。

2. 運営

全島統合上水道の運営：全島統合上水道は、在琉米陸軍および公社のもつ施設からなっている。在琉米陸

軍は、1958年5月15日両者の間で締結された運営協定にもとづいて、この全島統合上水道の運営および維持管理の全責任をもち、市町村その他の民間需要をみだすに必要な水量を原価で公社に供給することになっている。1967年度における全島統合上水道の生産水量は総計102億9,400万ガロン（93億1,400万ガロンの浄水と9億8,000万ガロンの原水）で、そのうち、54億1,700万ガロン（44億3,700万ガロンの浄水と9億8,000万ガロンの原水）の水を公社に供給した。

1967年3月在琉米陸軍と琉球水道公社の間で締結された運営協定にもとづいて、公社では新しく建設された石川浄水場と天願ダムを含む上水道施設の維持管理に必要な水質検査係、ポンプ場操作係、ダム監視人等18名を募集し、在琉米陸軍全島統合上水道部の直接監督下においた。これら職員の給与は米軍が公社に供給する水の代価から差引かれる。

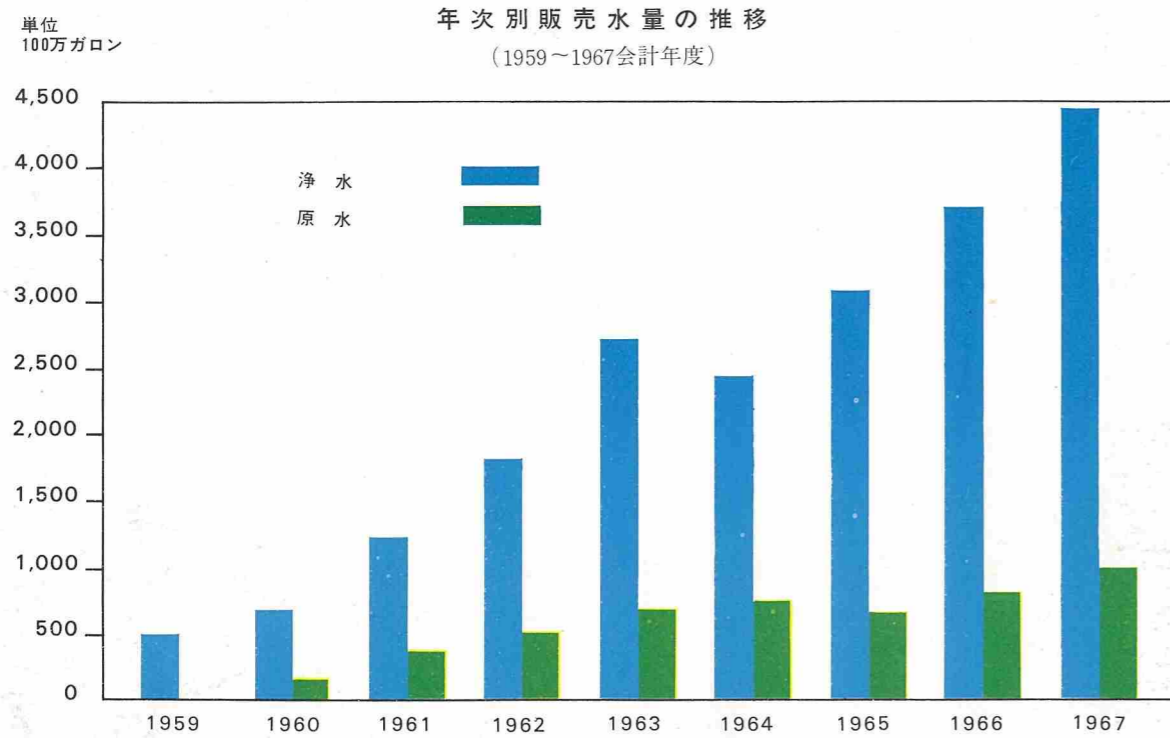
需要者別販売水量の内訳

(単位は1,000ガロン)

浄水	1967年度	1966年度	対前年比 増(減)率 (パーセント)
市町村			
那覇市	1,393,268	1,118,117	25
コザ市	782,013	647,723	21
宜野湾市	668,643	608,565	10
浦添村	562,719	425,689	32
美里村	231,043	192,707	20
具志川村	182,932	144,543	27
北谷村	145,335	124,497	17
嘉手納村	155,735	164,561	(5)
読谷村	152,631	104,109	47
北中城村	108,210	88,164	23
与那城村	13,850	7,932	75
西原村	1,279	0	—
小計	4,397,658	3,626,607	21
貸住宅会社	787	16,977	(95)
商業ならびに一般家庭	38,901	40,126	(3)
浄水販売量計	4,437,346	3,683,710	21
原水			
市町村(那覇市)	966,010	774,427	25
其他	13,925	0	—
原水計	979,935	774,427	27
合計	5,417,281	4,458,137	22

水の売上： 1967年度において公社は、12カ市町村、1つの貸住宅会社および97軒余の小口需要者に対し、44億3,700万ガロンの浄水を、又那覇市と2つの生産企業者に9億8,000万ガロンの原水を供給した。前

頁の表は過去2会計年度における公社の需要者別の水の販売量を比較したもので、下の図表は1959年度から1967年度までの公社の水の販売量の推移を示したものである。



琉球列島米国民政府と米国海兵隊との協定:

キャンプハンセンダムおよびそれに伴う土地を琉球水道公社に移管するための協定が1966年11月4日に結ばれた。この協定により水道公社は、上記貯水池から取水して石川浄水場に送ることができるようになった。石川浄水場の原水源は、現在このダムだけであるので、水道公社では同浄水場の原水需要をみたすために、沖縄北部の水源開発を計画している。

3. 設備投資計画

1967年6月30日現在、公社の設備投資計画として総額23,984,194ドルが予算化されている。この23,984,194ドルのうち14,896,557ドルは琉球列島米国民政府の一

般資金からの供与で米国政府割当資金からは6,476,937ドルで、残りの2,610,700ドルが公社の利益剰余金となっている。

琉球水道公社により建設された上水道施設は、1967年6月30日現在で13,000,000ドルとなり、更に8,000,000ドルが建設工事中又は設計中となっている。

米国陸軍沖縄地区工兵隊々長は、1966年12月21日、公社の総裁と米国陸軍工兵隊々長との間に締結され、施行された全島統合上水道施設の強化および拡張のための建設工事に関する協定書に基づいて、水道工事の設計および建設に関して琉球水道公社の契約官として、技

術面の調査研究、建築設計士の指定、設計の選定、入札案内および審査、工事契約、契約変更の勧告ならびに工事の監督、検収などを行う責任をもっている。

完了した建設工事:

今会計年度中に公社では次の11件の建設工事を完了した。

- 工事名
- (1) タイベース浄水場の凝集攪拌池の改良工事 1966年9月竣工



タイベース浄水場の凝集攪拌池

- (2) 那覇の一千萬ガロン貯水タンク 1966年11月竣工

これは公社の建設計画の第一段階として毎年季節的に水不足をきたす那覇市の水道事情を緩和するため、10,000,000ガロンの貯水タンクを那覇市上間に1966年11月に建設したもので、その落成式はフェルデナント・トーマス・アンガー高等弁務官をはじめ、民政官、琉球政府、および那覇市の関係者多数の出席を得て、1966年12月20日に行われた。このタンクは直径244フィート、高さ35フィートで、10,000,000ガロンの容量をもち、琉球列島でこれまでに建設された貯水タンク中最大のもの

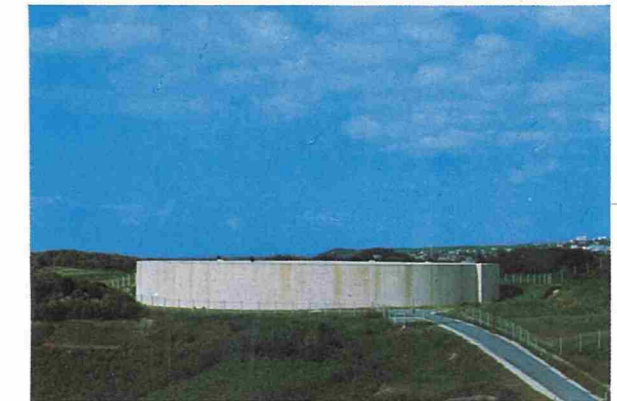
である。このタンクは、公社の水道基本計画にもとづく水道工事の最初の所産であり、琉球における近代上水道施設開発に一時期を画するものである。



一千萬ガロン那覇貯水タンクの落成式で祝辞を述べる高等弁務官



タンクの通水弁を開栓する高等弁務官



タンクの全景



タンク場地域を視察する高等弁務官と民政官

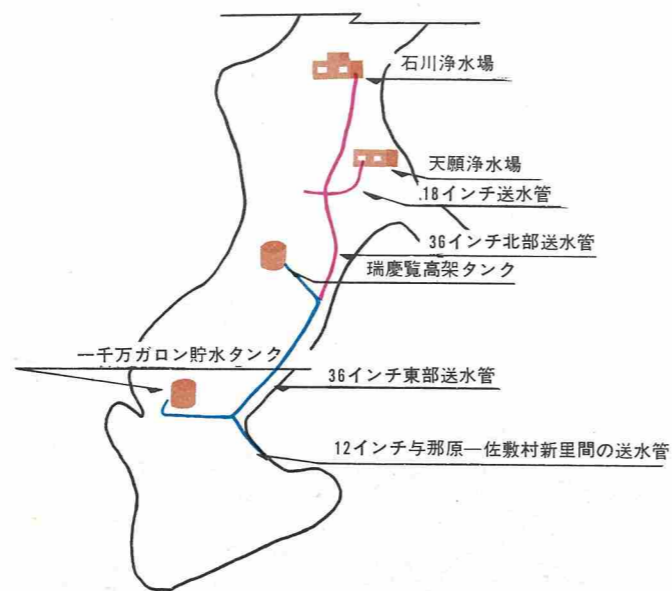


落成式で祝辞を述べる那覇市長

(3) 東部送水管敷設工事 1966年11月竣工 (30号線から那覇間)

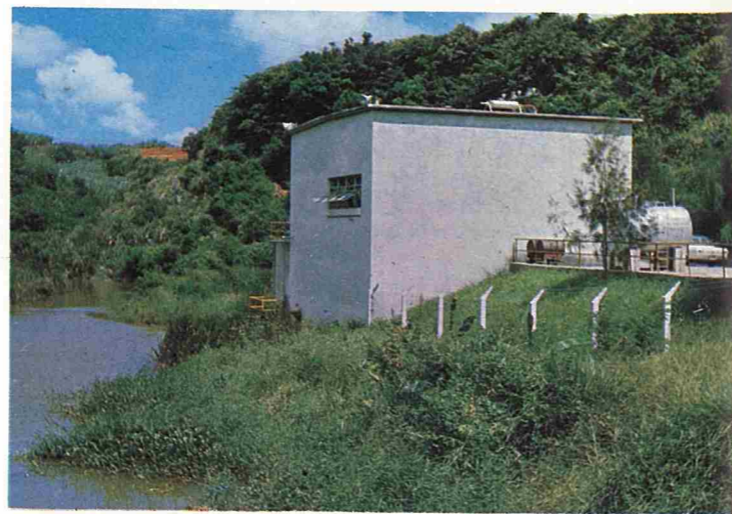
この送水管は5号線道路と30号線道路の交叉点から30号線道路に沿って13号線道路に至り、更に、13号線道路沿いに44号線道路に出て、那覇10,000,000ガロンタンクに至る東部送水管施設と呼ばれるものである。この36インチ送水管は北部送水管施設の一部で、13号線道路に沿って北へ伸び石川浄水場で終る36インチ送水管からの浄水を送るものである。尚、上記の石川浄水場から東部送水管に通ずる36インチ送水管は、13号線道路と16号線道路の交叉点で、18インチ送水管と連結され、石川浄水場ばかりでなく天願浄水場からも送水

できる。1966年11月に竣工したこの施設は、沖縄の中部東側一帯と南部に浄水を供給するためである。



(4) 長田川原水ポンプ場の改良工事 1966年11月竣工

この施設の完成で一日に3,500,000ガロンの原水を那覇市に送水することが可能となり、これまでより一日1,500,000ガロンの原水が那覇市に追加供給できる。



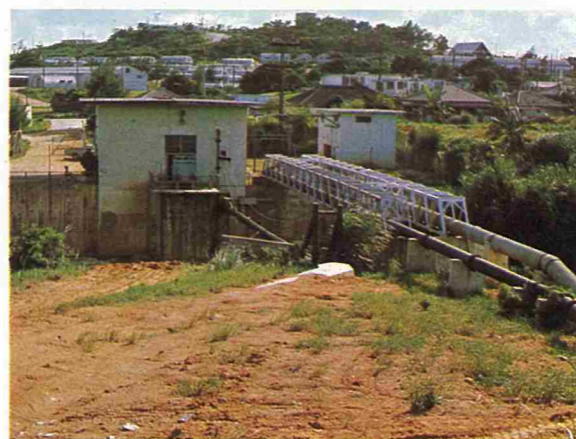
長田川原水ポンプ場

(5) 与那原-佐敷間の送水管敷設工事 1967年2月竣工

与那原町、佐敷村および知念半島の各部落に給水するため、公社では与那原町と佐敷村新里間の44号線道路に沿って12インチ浄水管を敷設した。

(6) 川崎原水ポンプ場の改良工事 1967年4月竣工

この改良工事は主として、14インチ原水本管を新しく20インチコンクリートパイプに、また、取水能率をあげるためポンプ場内のポンプ3基をより能率の高いポンプと取換える工事である。



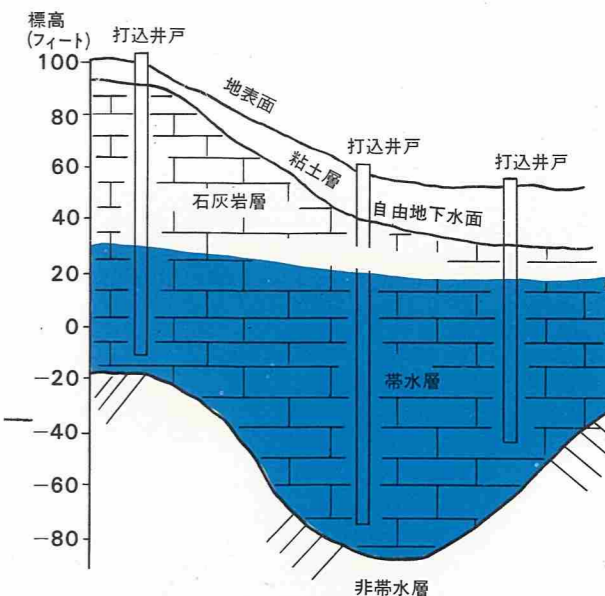
川崎原水ポンプ場

(7) 瑞慶山ダム第一次改良工事 1967年5月竣工

この工事は、ダム下流の左側受面(うけづら)に透水層をつくり、また基礎うけづらにコンクリートモルタル注入してダム(貯水能力6億ガロン)を補強する工事である。

(8) 天願打込井戸群 1967年6月竣工

1967年6月30日に5つの打込井戸が建設され運転中である。その結果、この井戸から1日に約2,800,000ガロンの水が全島統合上水道の生産水量に追加された。



天願地下水源の断面概略図

(9) 天願ダム 1967年6月竣工

3億3,000万ガロンの貯水能力をもつこのダムは、1967年6月に完成した。このダムの水は旱魃期に天願川の水量が減少したときに放流され、一日8,000,000ガロンの浄水能力をもつ天願浄水場に十分な原水を供給することができる。



天願ダムの水門塔

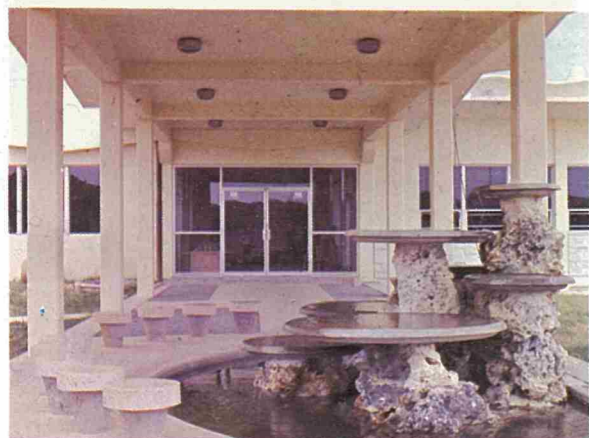
(10) 石川浄水場

1967年6月竣工

1日20,000,000ガロンの浄水能力をもつ石川浄水場は、1965年7月に着工され、1967年6月に完成した。この浄水場は沖縄中南部の需要をみたすために水を生産しているが、同浄水場への原水は、沖縄北部のキャンパンハンセンダムから送られている。しかし公社は更に同浄水場に送水すべく北部水源の開発を計画している。その第一期工事計画は、36インチ送水管を敷設して源河、平南および大保川から取水することである。この工事は、1968年7月までに完了を予定しており、第二期工事として、福地川までの送水管の延長と福地ダムの建設を予定している。このダムは貯水能力約100億ガロンを有し、1972年までに完成を予定している。



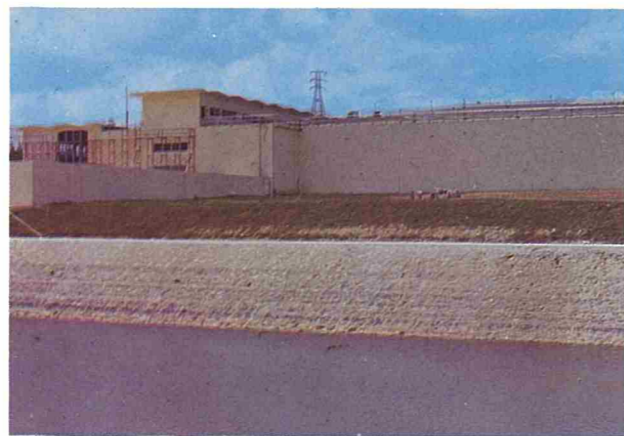
浄水場の全景



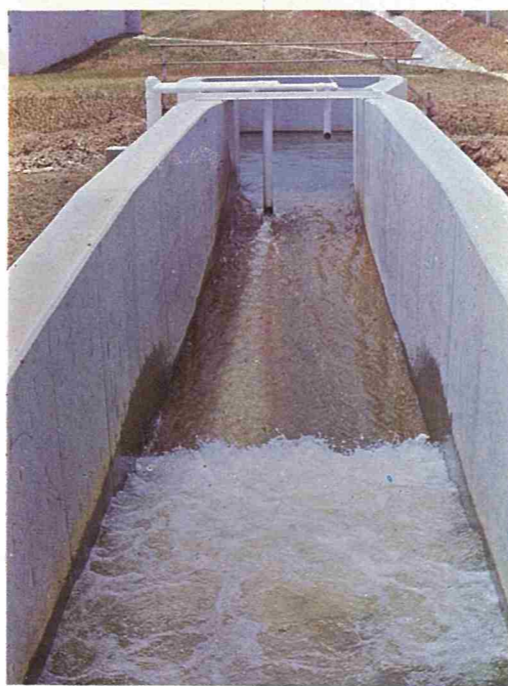
正面玄関



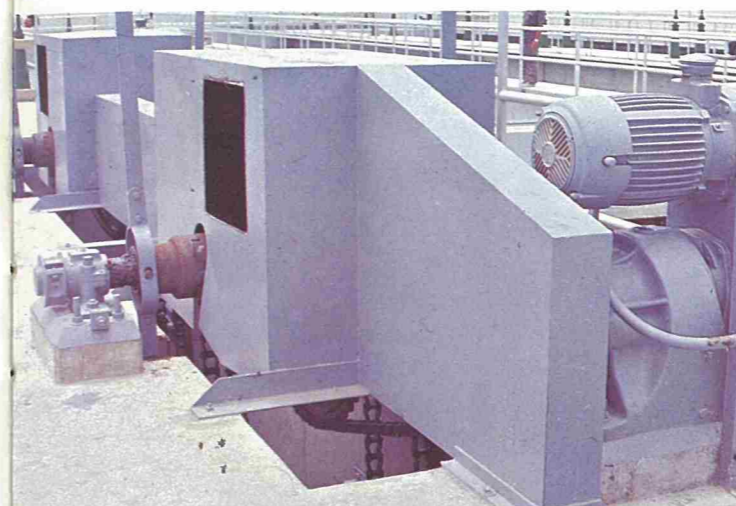
一千万ガロン原水タンク



原水放水路



薬品混和水路



攪拌機用電動機



凝集攪拌池、沈澱池および濾過池



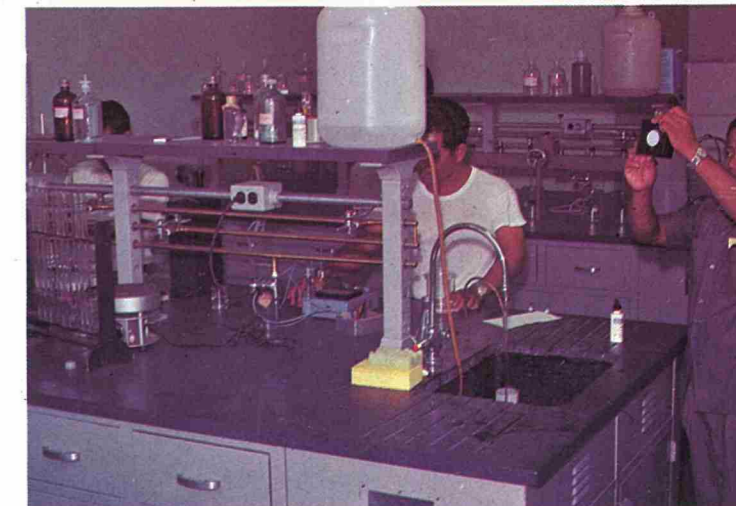
濾過池配管室



ポンプ室



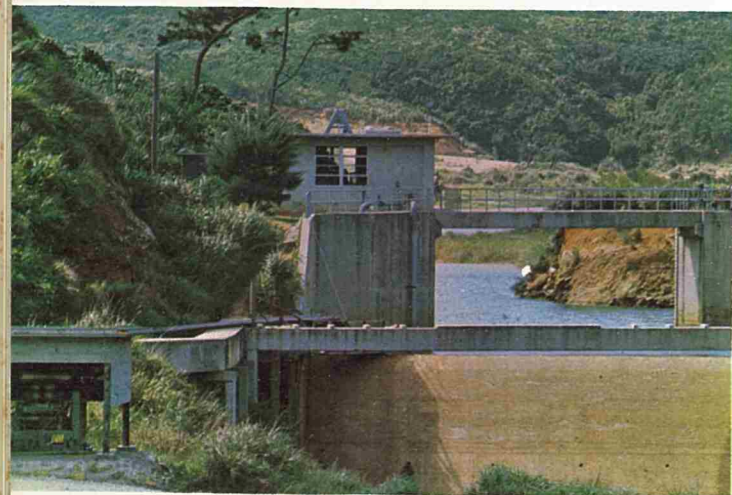
中央操作室



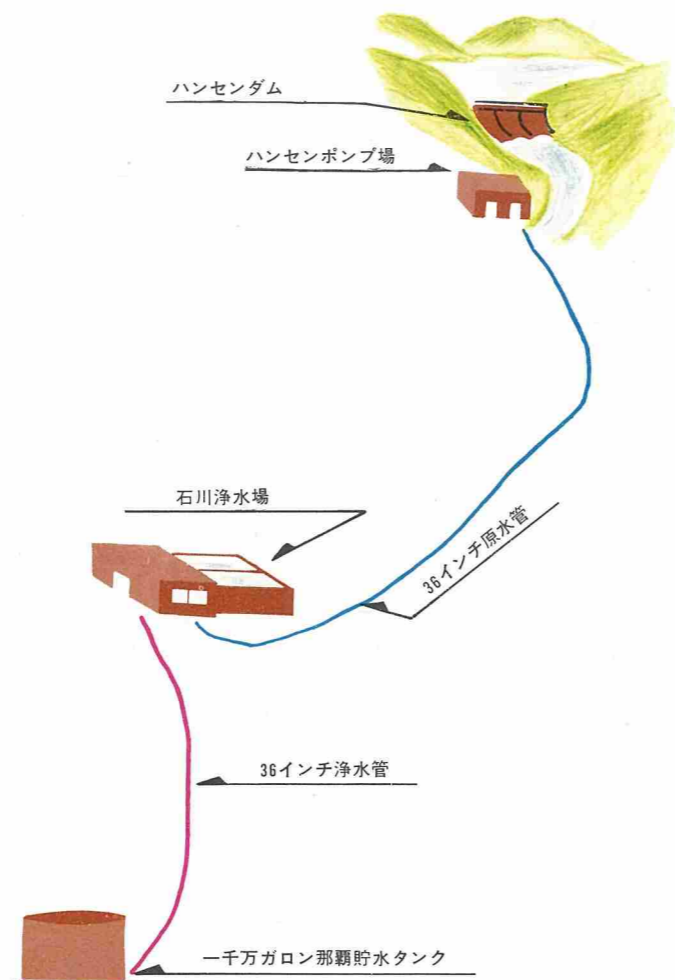
水質試験室

- (11) 北部送水管敷設工事 1967年6月竣工
(漢那から30号線間)

この工事は、漢那から石川浄水場までの36インチ原水送水管敷設工事と石川浄水場から東部送水管との連結地点である30号線道路までの36インチ浄水管の敷設工事からなっている。原水送水管は、キャンプ・ハンセンダムから原水を石川浄水場に送水する。



ハンセン原水ポンプ場



新規契約工事

1967会計年度中に公社は、次の14件の建設工事および購入の契約を新たに結んだ。

工事名	契約年月
(1) 与那原・佐敷間の送水管敷設工事	1966年6月
(2) 天願打込井戸群建設工事	1966年8月
(3) 打込井戸群建設工事(嘉手納・キンザー地域)	1966年8月
(4) 宜野座村大川、漢那間の送水管敷設工事	1966年9月
(5) 500万ガロンプラザー貯水タンク建設工事(西部貯水施設)	1966年10月

工事名	契約年月
(6) 比謝川タイベース浄水場間の30インチ送水管と付帯施設建設工事	1966年11月
(7) 東部送水管44号線連結工事	1966年11月
(8) タイベース浄水ポンプ場改良工事	1967年3月
(9) 宜野座村大川、東村福地間の送水管購入契約	1967年6月
(10) 天願、コザ間の送水管購入契約	1967年6月
(11) 500万ガロン牧港貯水タンク建設工事	1967年6月

工事名	契約年月
(12) 打込井戸開発第3期建設工事(キャンプキンザー-嘉手納空軍基地天願およびキャンプヘーグ地域)	1967年6月
(13) 天願、コザ間の送水管敷設工事(送水施設の改良工事)	1967年6月
(14) 天願浄水ポンプ場改良工事	1967年6月

完了した設計又は調査:

本会計年度中に次の14件の設計または調査が完了した。

工事名	完了年月
(1) 比謝川、タイベース浄水場間の30インチ送水管と付帯施設の設計	1966年8月
(2) 500万ガロンプラザー貯水タンクの設計(西部貯水施設)	1966年8月
(3) 宜野座村大川、漢那間の送水管の設計	1966年8月
(4) 天願、コザ、ホワイトビーチ間の送水管の調査研究(送水施設の改良工事)	1966年9月
(5) 1,000万ガロン第2那覇貯水タンクの設計(東部送水施設)	1966年10月
(6) 天願および嘉手納地下水源活用の調査研究	1966年11月
(7) 500万ガロン牧港貯水タンクの設計(西部送水施設)	1967年1月
(8) タイベース浄水ポンプ場改良工事の設計	1967年1月
(9) 沖縄北部における水源開発と活用についての調査研究	
i 調査研究	1966年12月
ii 経済上の研究(予備調査)	1967年3月
(10) 天願浄水ポンプ場の改良工事の設計	1967年3月

工事名	完了年月
(11) 糸満および豊見城地域への給水基本計画(研究)	1967年3月
(12) 第3期地下水源開発(キャンプ・キンザー-嘉手納空軍基地、天願およびキャンプ・ヘーグ地域)調査研究	1967年3月
(13) 天願、コザ間の送水施設の改良工事の設計	1967年3月
(14) 150万ガロン天願貯水タンクの設計	1967年6月

進行中の建設工事:

1967年6月30日現在新規契約工事を含めて11件の建設工事が進行中である。

工事名	工事の進捗率(パーセント)
(1) 中部送水施設建設工事	37
(2) 打込井戸群建設工事(嘉手納・キンザー地域)	70
(3) 宜野座村大川、漢那間の送水管敷設工事	98
(4) 500万ガロンプラザー貯水タンク建設工事(西部貯水施設)	27
(5) 比謝川、タイベース浄水場間30インチ送水管と付帯施設建設工事	49
(6) 東部送水管44号線連結工事	49
(7) タイベース浄水ポンプ場改良工事	0
(8) 天願、コザ間の送水管敷設工事	0
(9) 天願浄水ポンプ場改良工事	0
(10) 500万ガロン牧港貯水タンク建設工事(西部貯水施設)	0
(11) 打込井戸開発第3期建設工事(キャンプキンザー-嘉手納空軍基地、天願およびキャンプヘーグ地域)	0

設計または調査研究中の諸計画：

1967会計年度末現在次の9件が設計又は調査研究
中である。

- (1) 沖縄北部における水源開発と活用についての調査研究（経済上の研究）
- (2) 瑞慶山ダム第二次改良工事の設計
- (3) 流量測定所と水源調査
- (4) 天願、ホワイトビーチ間の送水施設改良工事の設計
- (5) 宜野座村大川、東村福地間の送水管とポンプ場の設計
- (6) タイベース浄水場から嘉手納および読谷間の送水管と付帯施設工事の設計
- (7) 13号線道路沿の昇圧ポンプ場（30号線と35号線付近）の設計
- (8) 中部送水施設の送水管延長工事と200万ガロン貯水タンクの設計
- (9) 福地ダムの設計

1967年度の民政府一般資金による諸計画：

1967年度に琉球列島米国民政府一般資金から割当てられた1,250,000ドルは、次の8つの工事計画に使われることになっている。

- (1) 糸満および豊見城地域への給水基本計画(研究)
- (2) 中部送水施設の送水管の延長工事と200万ガロン貯水タンクの設計

- (3) 150万ガロン天願貯水タンクの設計
- (4) 宜野座村大川、東村福地間の送水管とポンプ場の設計
- (5) 福地ダムの設計
- (6) 打込井戸開発第3期建設工事
(キャンプキンザー嘉手納空軍基地、天願およびキャンプヘーグ地域の設計)
- (7) 天願、コザ間の送水管敷設工事
- (8) 東部送水管44号線連結工事

1968年度に期待される資本増加：

1968年度には琉球列島米国民政府一般資金から2,200,000ドルの資金供与が期待されている。この資金は全島統合上水道の水道基本計画にもとづく北部水源開発の一部として、宜野座村大川から大宜味村平南までの源水送管敷設工事に当てられる。



II. 財務報告書

外間完和

公認会計士

沖縄那覇市寄宮314 電 ②-1072

監査報告書

琉球水道公社

理事会 殿

私は、琉球水道公社の1967年6月30日現在の貸借対照表および同日をもって終了した事業年度の損益および剰余金計算書について監査を行った。私の監査は、一般に公正妥当と認められた監査基準に準拠し、公社の会計記録の試査ならびにその時の状況に照らして私が必要と認めた監査手続を含めて実施した。

私の意見では公社の貸借対照表、損益ならびに剰余金計算書は一般に公正妥当と認められた企業会計基準に準拠し、かつ前年度と同一の基準に従って適用されており、1967年6月30日現在琉球水道公社の財政状態および同日をもって終了する事業年度の経営成績を適正に表示しているものと認めた。

沖縄那覇

1967年8月15日

公認会計士

外間完和

琉球水道公社

比較貸借対照表

	6月30日現在	
	1967年	1966年
資産の部		
流動資産：		
現金（脚注1）		
一般資金	\$ 1,651,717.59	\$ 920,506.68
建設資金	7,607,266.00	13,220,471.44
売掛金その他	103,841.84	89,670.19
未収利息	419,171.79	345,232.99
資材（脚注2）	73,719.46	52,501.38
前払費用	4,873.54	17,024.75
流動資産合計	\$ 9,860,590.22	\$ 14,645,407.43
固定資産：（脚注3）		
土地	\$ 42,845.91	\$ 9,407.91
償却資産	4,217,383.91	3,294,276.00
控除：減価償却引当金	(447,469.16)	(303,685.27)
建設仮勘定—水道基本計画工事	11,153,370.03	6,521,090.83
固定資産合計	\$ 14,966,130.69	\$ 9,521,089.47
資産合計	\$ 24,826,720.91	\$ 24,166,496.90
負債および資本の部		
流動負債：		
買掛金	\$ 50,495.52	\$ 82,928.01
未払金その他	238,933.24	138,578.73
預り保証金	5,031.00	1,795.00
流動負債合計	\$ 294,459.76	\$ 223,301.74
引当金：		
退職、給与その他の引当金	20,505.89	16,377.34
負債合計	\$ 314,965.65	\$ 239,679.08
資 本：		
資本金（脚注4）	\$ 21,426,075.10	\$ 21,288,318.21
利益剰余金	3,085,680.16	2,638,499.61
資本合計	\$ 24,511,755.26	\$ 23,926,817.82
負債資本合計	\$ 24,826,720.91	\$ 24,166,496.90

琉球水道公社

比較損益および剰余金計算書

	6月30日終了会計年度	
	1967年	1966年
売上（脚注5）	\$ 1,057,148.28	\$ 880,901.96
売上原価	570,053.96	461,915.95
売上総利益	\$ 487,094.32	\$ 418,986.01
営業経費：		
減価償却費（脚注3）	147,986.19	123,342.10
給料、賃金および諸手当	61,875.35	51,865.07
借地料	13,281.75	13,074.18
修繕維持費—事務用器具および運搬機具	2,364.61	2,111.26
水道施設維持費	1,865.45	4,104.38
一般事務用品費	1,417.06	1,809.96
監査手数料	344.50	1,000.00
通信費	1,198.18	894.17
保険料	2,797.45	1,487.07
研修費	— 0 —	131.64
光熱水道費	1,345.12	963.06
旅費	75.23	2,068.29
雑費	19,944.55	1,843.34
営業経費合計	\$ 254,495.44	\$ 204,694.52
営業利益	\$ 232,598.88	\$ 214,291.49
営業外収益：		
定期預金利息	\$ 657,276.24	\$ 720,124.29
雑収入	1,022.94	1,639.54
営業外収益合計	\$ 658,299.18	\$ 721,763.83
当期純利益	\$ 890,898.06	\$ 936,055.32
過年度損益修正		
加算：過年度収益	— 0 —	\$ 35,240.02
減算：過年度経費と損失（脚注6）	(443,717.51)	(21,627.55)
利益剰余金純増加額	\$ 447,180.55	\$ 949,667.79
期首利益剰余金	2,638,499.61	1,688,831.82
期末利益剰余金	\$ 3,085,680.16	\$ 2,638,499.61

琉球水道公社

財務諸表脚注
1967年6月30日

1. 現金預金：

1967年6月30日現在預金は次の通りである。

a) 小口現金	\$ 200.00
b) 当座預金	78,434.66
c) 定期預金	9,180,348.93
	<u>\$ 9,258,983.59</u>

2. 棚卸資産：

1967年6月30日現在、棚卸資産は次の通りである。

a) パイプおよび付属部品は移動平均原価法による価額	\$ 21,709.15
b) 余剰資材取得価額	52,010.31
	<u>\$ 73,719.46</u>

3. 固定資産と減価償却

年間の固定資産の増減は次の通りである。

a) 取得原価

	1966年7月1日 現在の残高	増 加	減 少	1967年6月30日 現在の残高
i) 土地	\$ 9,407.91	\$ 33,438.00	—	\$ 42,845.91
ii) 償却資産：				
1) 原水施設	1,180,284.88	112,360.66	3,291.05	1,289,354.49
2) ポンプ施設	172,667.01	170,766.56	19,710.00	323,723.57
3) 浄水 "	379,063.71	69,033.96	—	448,097.67
4) 送配水 "	1,524,638.13	586,992.88	11,354.52	2,100,276.49
5) 一 般 "	37,622.27	18,488.96	179.54	55,931.69
償却資産計	<u>\$ 3,294,276.00</u>	<u>\$ 957,643.02</u>	<u>\$ 34,535.11</u>	<u>\$ 4,217,383.91</u>
iii) 建設仮勘定	\$ 6,521,090.83	\$ 6,585,242.13	\$ 1,952,962.93	\$ 11,153,370.03
計	<u>\$ 9,824,774.74</u>	<u>\$ 7,576,323.15</u>	<u>\$ 1,987,498.04</u>	<u>\$ 15,413,599.85</u>

b) 減価償却引当金

	1966年7月1日 現在の残高	増 加	減 少	1967年6月30日 現在の残高
1) 原水施設	118,005.95	53,818.25	—	171,824.20
2) ポンプ施設	40,089.71	25,852.20	—	65,941.91
3) 浄水施設	22,469.73	6,798.97	—	29,268.70
4) 送配水施設	112,352.89	56,927.88	4,202.30	165,078.47
5) 一般施設	10,766.99	4,588.89	—	15,355.88
計	<u>\$ 303,685.27</u>	<u>\$ 147,986.19</u>	<u>\$ 4,202.30</u>	<u>\$ 447,469.16</u>

減価償却引当金は次の一年間総合定額率で計算されている。

1) 原水施設	4.5% (22ヵ年)
2) ポンプ施設	10.0% (10ヵ年)
3) 浄水施設	1.7% (60ヵ年)
4) 送配水施設	3.0% (33ヵ年)
5) 一般施設	10.0% (10ヵ年)

4. 資本金：

1967年6月30日現在、総額21,426,075.10ドルの資本金はすべて米国政府より拠出されたものである。1967年度中に、追加資本として137,756.89ドルが琉球列島米国民政府一般資金から出された。

5. 売上：

1967年6月30日末の売上は次の通りである。

浄水：	千ガロン単位	金 額
市 町 村	4,397,658	\$ 964,846.20
貸住宅会社	787	275.45
小口需要者	38,901	12,270.73
浄水売上計	4,437,346	\$ 977,392.38
那覇市への原水売上	979,935	78,394.80
水の売上計	<u>5,417,281</u>	<u>1,055,787.18</u>
水道管連結および修繕サービス料		1,361.10
売上合計		<u>\$ 1,057,148.28</u>

6. 利益剰余金：

1967年6月30日年度末における利益剰余金の増減は次の通りである。

減少：計画中止による損失

a) 漢那ダム及びポンプ場の設計費	\$ 405,947.17
b) 国場川の予備調査費	25,934.77
c) 牧港ダムの調査研究費	<u>11,835.57</u>
計	<u>\$ 443,717.51</u>

7. 税金：

公社はすべての税金が免除されている。
